



市内にあるため池

安心して暮らせるまちづくり

◆防災無線音達域調査

問 住民への周知や集約が十分かどうか。(中村)

答 回覧板により周知した。様々な条件で今後も実施し、調査をしていく。

◆地震対策について

問 ため池は市内に何箇所あるか。また堤防の耐震について調査は。(青木)

答 本市には大小56箇所のため池がある。今後計画的に現地調査していきたい。

◆(仮称)南部消防署

問 消防局の中長期構想の中で、(仮称)南部消防署設置は可能か不可能か。(森川)

答 大変困難ととらえている。

福祉の充実を図る

◆終末医療について

問 ホスピスへの市の考えは。(務色)

答 市としては具体的な取り組みは無い。

◆国民健康保険特定健診

問 生活習慣病発症の低年齢化が進んでいる。子どもの健康管理への意識啓発として、健診対象を親である20代まで

問 設置が不可能なら、ドクターヘリポートの設置等、楢川地区の消防体制の強化を願う。また長期的には楢川、北小野、小曾部等、常設署から離れた地域での救急搬送車の施設設置を望むが。(森川)

答 課題として検討する。



特定健診の対象拡大を

拡大してはどうか。(宮田)

答 意味のあることで、来年度行う第2期健診実施計画の策定にあわせて検討する。

◆第5期介護保険事業

問 低所得者に配慮した保険料負担に。(永井)

答 国は6段階負担を基本としているが、市は現行の10段階から更に11段階に細分化し市民の負担軽減に配慮する。

◆タクシー利用券の利用柔軟に

問 通院等の機会確保で高齢者世帯の該当者にタクシー利用助成券が発行されているが、使用にあたり、1回1枚と使い方が限定されている。年間24枚の発行枚数の中にあつては「使い方は柔軟に」との声が上がっているが。(鈴木)

答 外出機会の確保の趣旨からまとめの使用は趣旨を損なうが、利用者の趣旨に沿つ

自然エネルギーの活用

◆太陽光活用の支援を

問 初期費用ゼロ円の太陽光発電システムの導入は。(青木)

答 事例を参考に研究したい。

◆水道事業の業務委託

問 水道事業協同組合との連携による支援策は。(永井)

答 水道事業の効率的運営と水道組合の公益性や財政基盤の安定化を高める支援策として、給水装置・宅内排水設備工事検査の現地確認業務の委託など、定型的業務の委託を検討する。



保健福祉センター屋上のソーラーパネル

た利用が行われるならば柔軟対応について検討していく。